

全国・学力学習状況調査の結果等について

1 調査の概要

- (1)実施学年（本町の調査人数） 小学校6年生（152名）、中学校3年生（144名）
- (2)内 容 ①教科に関する調査 国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学B、理科
A問題 主として「知識」に関する問題 B問題 主として「活用」に関する問題
 ②生活習慣や学習環境等の状況に関する調査
- (3)目 的 学校の学習内容や方法、児童生徒の学習状況等の改善に役立てる。

2 教科に関する調査結果

表現について～「低い・高い」：3%以上5%未満、「やや低い・やや高い」：1%以上3%未満、「同程度」：1%未満

(1)小学校 平均正答率

	国語A	国語B	算数A	算数B	理 科
別海町と全国・全道との数値比較	全国・全道と同程度	全国と同程度で全道よりやや高い	全国よりも低く全道よりやや低い	全国・全道より低い	全国と同程度で全道よりやや高い
全 国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%
全 道	70.1%	52.7%	62.2%	48.7%	58.8%

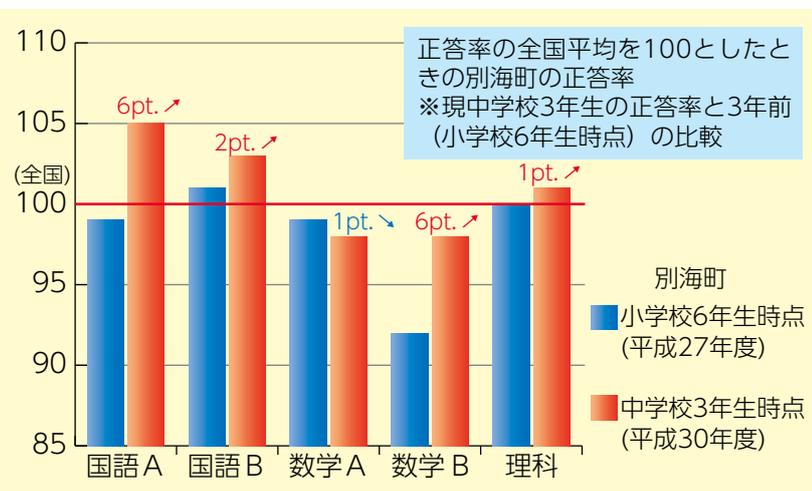
(2)中学校 平均正答率

	国語A	国語B	算数A	算数B	理 科
別海町と全国・全道との数値比較	全国・全道より高い	全国・全道よりやや高い	全国よりやや低く全道と同程度	全国・全道と同程度	全国・全道と同程度
全 国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%
全 道	76.6%	61.2%	64.9%	45.8%	66.7%

※青字は全国平均よりも高い教科です。

※結果の公表は、調査の目的を重視し、以下の2点について留意することとなっています。

- ・調査の目的や調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること。
- ・全道および全国の平均正答率との比較により、序列化や過度の競争をおおるものではないこと。



多くの教科で向上が見られます。

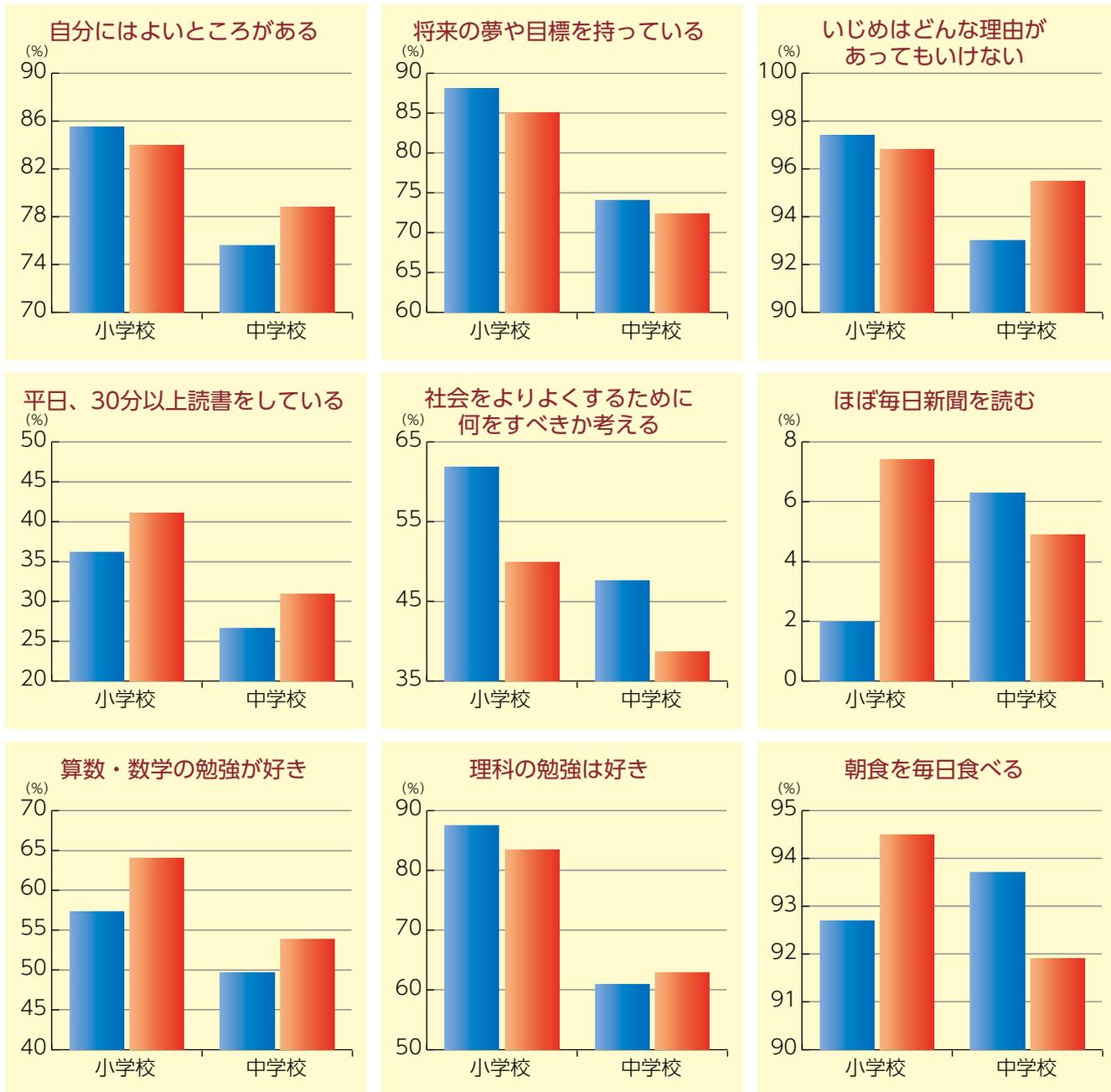
現中学校3年生が、全体として小学校から成績を伸ばしていることがうかがえます。昨年度もほぼ同様の結果となっています。これは、何よりも子どもたち自身の努力、中学校の頑張りのもとより、土台となる小学校の力、そして各学校区における小中学校間の連携の成果と捉えています。

今後は、小中学校の連携に加えて、昨今注目されている「幼児教育の重要性」から現在取り組みを進めている「保幼小中連携」を一層推進していきます。

3 生活習慣や学習環境等の状況

項目はここ数年課題としているものです。

■ 別海町 ■ 全国 ※「当てはまる」「どちらかといえば、あてはまる」の割合 (%)



※国語についての質問はありません。

4 本町の取り組み

本町では、児童生徒の学力向上の取り組みをはじめとし「変化が激しく予測が困難な時代」といわれる、これからの社会を、全ての子どもたちが、たくましく生き抜くため、平成26年度から「生き抜くカアアッププロジェクト」を展開しており、現在2期目の取り組みを進めています。

この事業については、次回広報1月号をご紹介します。

第2期生き抜くカアアッププロジェクト

学力向上 ・読書教育とNIE ・表現の場の工夫・充実 ・学びのTゾーンに基づく 自学力を育む授業改善 ・「みんなでやろうぜ！ 家庭学習WEEK」の拡大と定着	生活・体力向上 ・体カづくりの推進 ・「スイッチOFF22 生活変えよう 未来を変えよう」 の拡大と定着 ・給食一品「まごは(わ)やさしい」 レシピコンテストの拡大
---	--

教師力向上 ・秋田県横手市教育実践調査 ・日常授業改善のための研修内容のブラッシュアップ	・スーパーティーチャー研修会
---	----------------

別海町子ども会議